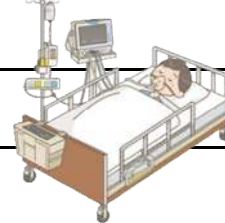


腹腔鏡下胆嚢摘出術:当日入院パス 入院診療計画書

患者 I D	主治医	病 名	説 明 日
患者氏名	() 担当医	管理栄養士	症 状 ☐ 事前検査による異常所見
生年月日	() 看護師	特別な栄養管理の必要性	☐ 患部の自覚症状
病棟(病室)	薬剤師	☐ 有 ☐ 無	(腹痛・発熱・黄疸・)

月 日	入 院 日 ・ 手 術 前	手 術 後
患者目標	不安なく治療を受けることができる	手術後合併症を起こさない
治療 処置 注射 (内服)	現在使用している薬をすべて確認します(現在中止している薬も含む) 入院中に使用する薬について説明します アレルギーの有無等を確認します 	自動血圧計、心電図モニターを装着します 酸素を開始し、足にはフットポンプを装着します 装着時間は状態によって変わります 点滴をした状態で帰室します(続けて点滴します) お腹に管が入っていることがあります
検 査	必要に応じて行います	
食 事	食事・水分をとることはできません	食事・水分をとることはできません
排 泄	制限はありません	尿の管が入っています 排便はベッド上で便器を使用します 
清 潔		翌朝まで手術着のままで観察していきます 消灯前にベッド上で、うがいと顔拭きを行います
活 動 (安静度)	病室内でできるだけ安静にお過ごしください 手術室へ歩いて移動します 状態によっては車椅子やベッドで移動します	翌朝の回診まではベッド上で安静となります
説 明 (指 導)	入院生活や手術について説明します 義歯・補聴器があるかを確認します ネームバンドを装着します 手術開始予定時刻は 時 分です 装身具(眼鏡・時計・義歯・指輪等)を外します 手術着に着替え、弾性ストッキング(血栓を予防する靴下)を着用します ご家族の方は病棟の食堂にてお待ちください 	痛みが強い時や、気持ちが悪い時など、異常を感じた時はすぐにお知らせください 手術後に医師からご家族へ説明があります
その他	転倒転落・せん妄リスクが生じる場合は、適宜観察し対応させていただきます	

上記の内容は状態によって変更する場合があります。変更の際は、その都度お伝えします。

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものである。

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものである。

外科パス:

腹腔鏡下胆嚢摘出術:当日入院パス 入院診療計画書

患者氏名

() 患者 I D

月 日	術後1日目	術後2日目	退院日
患者目標	日常生活に支障がない状態で退院を迎えることができる		
治療 処置 注射 (内服)	日中まで点滴をします 回診時、ガーゼの汚染が多い時は交換を行います (退院まで必要時行います)	(必要に応じて)お腹に入っている管を抜きます 状態により前後することがあります	退院時に処方がある場合は、薬剤師からお渡しします(不在の場合には看護師からお渡しする場合があります)
検査	血液検査とレントゲン撮影をします	必要に応じて行います	ネームバンドを外します 体温計を回収します
食事	医師の回診後から水分(水・お茶のみ)を 摂取することができます 昼は五分粥食、夕からは常食(必要に応じて治療食) となります	常食(必要に応じて治療食)です 	「胆石・胆嚢炎で手術をされた方へ ～退院後の生活について～」の パンフレットをお渡しし、 退院後の過ごし方について説明をします
排泄	尿の管を抜きます 尿の管を抜いた後は、制限はありません	制限はありません	次回外来について説明をします 次回の外来予約票と診察券をお渡し します 会計担当者が、お部屋へ伺います (開院日)
清潔	タオルで体を拭くことができます (必要な場合はお手伝いをします)		会計の説明を聞いてからの退院と なります 状況によっては、多少お待ち頂く場合 がございます
活動 (安静度)	回診後からは病棟内でお過ごしください (初回歩行時は看護師が付き添いをします) 初回歩行後は、ふらつきなどがなければ 1人で歩けます 歩行後、弾性ストッキング(血栓を予防する靴下)を 脱ぎます 状態によって変更があります	制限はありません 腸の動きを活発にするため、積極的に歩きましょう 	
説明 (指導)			
その他	毎日回診があり、医師が手術部位の状態を確認します		

外科パス: